

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末  
創刊日：1999 年 12 月 8 日  
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 8. No.27 2006 年 10 月 20 日号

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

## ニュース項目

タンバーク日本支社、PC ベースのビデオ会議システム、2007 年 4 月 - 6 月期リリース予定と発表、現在ベータ版が日本などのタンバークユーザーで検証稼働中



**TANDBERG Movi** (画面内は、上部はタンバーク谷口氏、下は編集長橋本)

ビデオ会議システム大手タンバーク日本支社(東京都中央区)は、PC ベースのビデオ会議システムクライアント「TANDBERG Movi(タンバーク・モビ)」を発表した。製品出荷は、2007 年 4-6 月期を予定。また、クライアント配布は、同時接続ライセンスでの提供を予定。

タンバーク社としては、今まで専用端末のビデオ会議システムのエンドポイント端末のラインナップとしては、ハイエンドの役員室、大規模会議室向けのシステムから、中規模小規模など向けのセットトップ、そして、デスクトップ向けのシステムと専用ハードウェア端末を中心に製品を拡充してきたが、今回の TANDBERG Movi により、ハードウェアの専用端末だけではなく、PC で使用するソフトウェアクライアントを投入

することにより、移動の多いビジネスマン等が、出張中でもホットスポットやホテルのブロードバンドインターネットから高品質のビデオ会議が行えるようになる。



## TANDBERG Movi の簡単なシステム構成

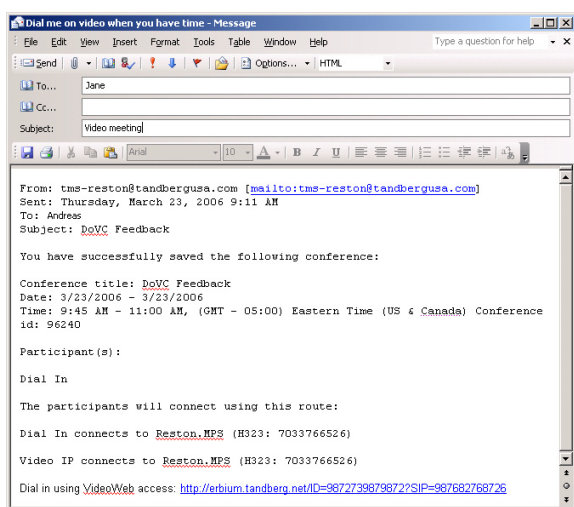
TANDBERG Movi の性能や機能についての詳細については、来年の出荷時を待たねばならないが、同社のビデオ会議システム端末、多地点接続装置、ストリーミング、3Gゲートウェイなどからなるトータルなビジュアルコミュニケーションソリューションのひとつに位置づけられる。

TANDBERG Movi は、PC ベースのクライアントにはなるが、基本的には特別なソフトウェアのインストールの必要はない。そして、TANDBERG Movi がアップグレードを出荷後行ったとしても、クライアント PC 側では特別なインストール作業は不要で、サーバ側のアップグレードと同時に、クライアント PC 側では最新のバージョンが使用できる。そのため情報システム部門の管理運営における負担が軽減できる。

クライアント PC 側の操作性は非常に簡単。ユーザーインターフェイスもタンバークの黒の配色に合わせたシンプルなデザイン。コールのための緑ボタン、切断のための赤ボタン、ボリューム、音声ミュート、簡易設定ボタン、相手端末をコールするための入力ボックスのみ。視覚的ボタン

をクリックするだけで基本的な操作が行える。

TANDBERG Movi を社内ネットワークで活用する際にポイントになるのは、TMS(タンバーク・マネージメント・システム)。TANDBERG Movi からコールするためには、TANDBERG Movi のクライアント毎に、一意のユーザーネームアドレス(URL に似たようなアドレス形式で記述されている)を割り当てられ、それをベースに TANDBERG Movi の各クライアントを識別するための設定をシステム管理者が初期設定時とクライアント追加時に TMS 上で行う。



一番下の青色のリンクをクリックすることで会議セッションへ入れる。

TANDBERG Movi からビデオ会議セッションに入るためには、3通りある。(1) TMS で管理されている会議予約からの会議招待メールに記述されているリンクからビデオ会議セッションに入る方法。(2) TMS のアドレス帳ディレクトリに登録されている相手端末の情報を TANDBERG Movi から参照してセッションに入る方法。(3) イン트라ネット上のホームページに専用のリンクを設定しておき、それをクリックすることで、セッションに入る方法。いずれにしても、クライアントに負担のならないコール方法が提供されている。

今回の発表にあたって、同タンバーク社 谷口 智則氏は、「マーケットとして PC クライアントのビデオ会議システムも需要があると当社では考え今回の開発に至った。しかし、

TANDBERG Movi は、一般にみられるビデオチャットの映像と音質とは一線を画している。もちろん他の MXP 専用ビデオ会議端末と同程度の品質を提供する考えだ。現在は、日本を含む既存のタンバークシステムのユーザなどでベータ版を実環境で稼働して頂いている。そしてそれらのフィードバックをもとにブラッシュアップし完成版を出荷する予定だ。」と開発に至った背景を説明する。

「TANDBERG Movi によって当社のビジュアルコミュニケーションソリューションは、いつでもどこでものモビリティ面の強化が図られ、ユーザにとってもビデオ会議利用の相乗効果が期待できると思っている。TANDBERG Movi 以外でも今年の後半から来年にかけて、新たな新製品の発表が予定されているので期待して欲しい。」(同 谷口氏)

#### 【編集長橋本のコメント】

TANDBERG Movi については製品出荷開始時に新たにプレス発表が出ると思われるため、CNAレポートとしてもその時には詳細にレポートできればと思う。

TANDBERG Movi の発表について一通り、お話を伺ったところで、橋本は、谷口氏に、「ビジュアルコミュニケーションソリューションのパズルはひとまずこの TANDBERG Movi で完成でしょうか。」と質問したところ、谷口氏は、「今までは35ピースのパズルを完成させたと例えたとするれば、今後は数百ピース以上のパズルを作っていく考えです。」とのことで、タンバーク社としてはビジュアルコミュニケーションを通して今後も多様な製品群やソリューションを開発していく、と強い抱負を述べていた。詳細情報については、期待したい。正式発表を待ちたい。

#### NTT ビズリンク、ハイデフィニションテレビ会議システム向けのパッケージサービスを開始

エヌ・ティ・ティ・ビズリンク株式会社(東京都文京区、以下、NTT ビズリンク)は、高品位なテレビ会議専用ネットワークとHDテレビ会議システム機器のレンタル及び会議運

用のサポートをパッケージにした重要会議向けの「テレビ会議エグゼクティブパッケージ」サービスを10月19日より提供開始した。

テレビ会議エグゼクティブパッケージは、HDテレビ会議に最適なテレビ会議専用ネットワーク、HDテレビ会議端末、HD画像表示可能なディスプレイ、ハイタッチの運用サービスがオールインワンで提供される。

今回発表の背景となったのは、今年から高解像度、高画質のHDテレビ会議が各社から発売されてきているというのが大きな理由。従来のテレビ会議システムとは異なり、高解像度の映像を出すために、HDテレビ会議においては、HD対応のテレビ会議端末はもとより、HD画像を表示できるディスプレイ、そして場合によりHD対応のカメラも必要となる。

さらに、HDテレビ会議に必要な帯域では、1拠点あたり1Mbps以上のIP広帯域ネットワーク、そしてHDでのテレビ会議多地点になるとさらに多大なトラフィックが集中するなど安定したテレビ会議を行うための通信帯域の確保管理が必要となる。加えて、HDテレビ会議を使った会議や多人数のセミナー中継などでは、ネットワークの帯域や品質に対するサポートがより一層重要になる。

そういったことから、NTTビズリンクでは、1997年以來のテレビ会議専用ネットワークやテレビ会議運用ノウハウの実績を元に、高解像度のHDテレビ会議導入を、導入から、ネットワーク提供、そしてその運用サポートまで一貫してサービスとして提供することにより、最高品質のテレビ会議をより簡便にまた安心して導入できる仕組みを提供することを考えた。

パッケージサービスでは、帯域保証のネットワークを利用した信頼性の高いプランである「プラチナプラン」と、ブロードバンド回線を利用したハイコストパフォーマンスのプラン「ゴールドプラン」の2種類のサービスを提供する。両者の違いは主に、提供するネットワークの種類、サポートする端末管理、そしてヘルプデスクの提供方法などになる。

まず違いからだが、ネットワークについては、プラチナプランでは、1拠点あたり専用線による帯域保証型のネットワー

ク(2Mbps 100%)を、それに対して、ゴールドプランでは、Bフレッツ回線によるネットワーク提供となるが、両サービスともバックアップ回線として、ISDNを使用する。

端末管理については、プラチナプランでは、周辺装置の運用管理サポートも可とし、ゴールドプランでは、要望によるテレビ会議端末の電源オンオフのサポートを提供する。

ヘルプデスクの提供方法については、専用の電話番号によるが、プラチナプランでは、ユーザの要望によりテレビ会議を使ったヘルプデスクが可能だ。

その他両サービス共通の部分では、推奨のHD画像対応ディスプレイとして42インチスピーカー内蔵のプラズマディスプレイ(スタンド、棚板、取り付け含む)。レンタルあるいは買い取りが可能。

会議運用については、ネットワークの状態監視(ルータまで)及び状態の変化をメールにてユーザに通知する。また、会議開始3日前までに予約すれば、(1)会議前にNTTビズリンクのオペレーションセンタと接続しての映像・音声の確認、(2)オペレーションセンタからのダイヤルアウト、(3)オペレータが会議室への参加時にサポートを行うGreet&Guide型サービス(会議室へ接続する際にオペレータ直接対応し会議室へ案内するもの)、(4)会議中の状況確認、問い合わせへの即時対応が含まれる。

サービス費用は、プラチナプランは、月額基本費30万円に、端末数に応じて1台あたり31万円、ゴールドプランでは、月額基本費20万円に、端末数に応じて1台あたり15万円となる。最低利用期間は3年で、4年以降になると、それぞれのプランは1台あたり5万円割引かれる。また、オプションで現地立会いのオンサイトコンシェルジェも提供。

NTTビズリンクでは、イベントでの遠隔講演中継や重要度の高い会議、それに加え高品質な映像と音声を提供するハイエンドなテレビ会議サービスを求める企業などが、テレビ会議エグゼクティブパッケージが最適ではないかと見ている。

## グローバル・タンク、国内最割安な電話会議サービスと国際 ISDN サービスを提供

グローバル・タンク株式会社(東京都新宿区)は、同社のブランド UltraCall(ウルトラコール)のもと、国内市内通話サービスから衛星通信サービスまで法人企業ユーザが必要とする各種通信サービスを割安な価格にて提供している。

同社は、80年代のコールバック電話サービスをきっかけに、1993年8月に米国テレグループ社の日本総代理店として会社設立から始まり、国内主要電話会社4社と国内長距離電話サービス一次代理店契約を締結(1997年)、日本初の第一種国際通信サービスの再販事業(1999年)、国際 ISDN 回線再販事業の開始(2002年)やフリーコール、海外用レンタル携帯電話、トラベリングカード、国際転送電話など通信サービスの再販事業を主に行ってきた。国際 ISDN サービスでは、大手通信事業者の価格よりも最大 65%のコスト削減が可能で主要 55 カ国地域をカバーしている。「128kbps(64kbpsを2チャンネル使用)の国際 ISDN で2時間テレビ会議を行った場合、14,000 円から 20,000 円程度コスト削減が図れる。」(グローバル・タンク株式会社 営業部長 坂本 聡氏)

その中で、会議サービスとしては、2001年5月に90拠点電話会議サービスを開始、大阪に電話会議のアクセスポイント設置(2006年4月)を行い、電話会議サービスの拡充を図っている。

「当初は、電話会議も含め当社の通信サービスは外資系企業のお客様が多かったが、ここ数年は大手企業を中心に当社のサービスをご利用いただいている日本国内企業も増えてきた。当社の強みは、高品質な通信サービスを再販事業の利点を活用し各種通信サービスを大幅にコストダウンして提供しているところにある。内訳通話明細などの付加サービスも提供し通信サービス利用における利便性を高めている。」(同 坂本氏)

電話会議サービスについては、アクセスポイントへのダイヤルをすることでサービス利用するダイレクトコールインでは、税込み 21 円/分/回線(以下同)、フリーダイヤルでは、31.5

円、また、オペレータによるダイヤルアウトでは、31.5 円。国際トールフリーアクセスでは、国によって変動はあるが、アメリカからだと分あたり、52.5 円で提供している。また、「日本国内の電話会議サービスでは当社サービスは、もっとも廉価であるうちのひとつと思う。また、当社の電話会議サービスは、日本国内の株式時価総額トップ 20 社のうち 8 社が利用している。」(同 坂本氏)

電話会議サービスは、基本料、月額料はなく、月間 2000 分以上利用する場合に、15%から 25%の自動割引を行う。31 地点間以上の電話会議は事前予約が必要だが最多 900 地点の同時電話会議もサポートしている。日、英語の言語、イベント利用なども対応可能。その他には、オプションとして、会議録音・再生サービスなどもある。

「使い方が、予約なしで利用されるお客様が約 90%。使いたい時に即座に使えるというのが予約なしの電話会議サービスの利点だが、重要な会議にはオペレータが段取りから当日のサポートまで行うイベント的な対応も必要。予約なしと予約ありで使い分けをすると電話会議は便利だと思う。当社の割安な通話サービスとこの電話会議サービスを組み合わせればよりコストを抑えてワンストップで通信サービスを利用できる。」(同 坂本氏)

「電話会議の良さは、一般の電話機や携帯電話など電話機があるところからであればどこからでもダイヤルするだけで使用できる手軽さや便利さがある。シンプルなので使いやすいし、メンテナンスコストはほとんどかからない。物理的に顔と顔を突き合わせての会議も必要だと思うが、時には時間とコストを考えた電話会議の利用も多忙なビジネスマンにとって非常に役に立つと思う。電話会議は、現在は外資系が主で日本企業も徐々に認知してきているという状況だが、今後普及していく企業のツールのひとつに市場が成長していくのではないか。」(同 坂本氏)

## クレオのウェブ会議システム、録画、セキュリティ、ユーザ情報連携で機能強化

株式会社クレオ(東京都港区)は、同社のウェブ会議シ

システム「FACE Conference 5 シリーズ」に「録画オプション」、「セキュリティオプション」、「ユーザ情報連携(LDAP)オプション」の提供を開始した。

録画オプションで、会議やセミナーの録画をサーバで行い、オンデマンドの視聴を行える。録画可能なビットレートは、512kbps、1Mbps、3Mbps の 3 種類。1 時間の録画で最小約 225MB の容量で録画可能。

セキュリティオプションは、FACE Conference で使用するデータを SSL で暗号化、さらに今までは通信に 6 つのポートが必要だったが、このオプションを使うことによって、通信ポートを任意の 1 つにまとめることができ、ファイアウォール越え、プロキシ経由の通信も可能。

LDAP オプションでは、既存の社内システムと FACE Conference との間のユーザ情報の連携共有が可能になるため、ユーザ情報のスムーズな管理が行える。

費用は、録画オプションでは、初回基本ライセンスとセットでオプションを購入の場合、20 万円(単独購入の場合は、40 万円)、セキュリティオプションについては、セットの場合が 10 万円(単独の場合は、20 万円)、LDAP オプションは、別途見積もりとなっている。

FACE Conference は、200 社以上の導入実績があり、現在「ORIGINAL 版」と「かんたんエディション版」の 2 種類の製品を販売している。

(関連記事:CNA レポート・ジャパン Vol.8 No.16 2006 年 6 月 10 日)

### 日立グループ、NGN に向けグループ会社再編と事業体制強化、新会社設立。日立ハイブリッドネットワークは合併新設会社へ。日立ハイブリッドネットワークの NetCS series は他のグループ会社へ移管

株式会社日立製作所(東京都千代田区)は、次世代ネットワーク(NGN)市場向け事業体制強化の一環として、10 月 1 日よりグループ会社の再編と事業体制の強化を行う。

日立グループのネットワーク関連分野の事業体制は、日

立のネットワークソリューション事業部が全体戦略とシステムインテグレーションを担当し、株式会社日立コミュニケーションテクノロジー(東京都品川区)が通信ネットワーク製品事業、株式会社日立インフォメーションテクノロジー(東京都品川区)が、コンピュータ系ネットワーク製品の開発・エンジニアリング、日立ハイブリッドネットワーク株式会社(神奈川県横浜市西区)が、通信系ネットワーク製品の開発・エンジニアリングを分担していた。

今回の再編では、グループ会社 3 社が分担していたネットワーク関連製品事業を日立コミュニケーションテクノロジーへ 10 月 1 日付け集結。また、日立ハイブリッドネットワークと日立インフォメーションテクノロジーは合併し、国内最大規模のエンジニアリング会社として日立情報通信エンジニアリング株式会社(神奈川県横浜市西区)が発足することになった。

会議システム関連としては、日立ハイブリッドネットワークで提供していた IP ビジュアルコミュニケーションシステム「NetCS series」は、日立コミュニケーションテクノロジーへ、また、IP 映像、音声組込み機器の開発に必要な各種ソフトウェアライブラリ「WINC テクノロジー」は、日立情報通信エンジニアリングで提供する。

(関連記事:CNA レポート・ジャパン Vol.8 No.22 2006 年 8 月 31 日など。)

### 【海外 news】米 LifeSize 社、MCU、ゲートウェー、ゲートキーパー各装置を発表



今回発表の製品群



米ビデオ会議システムメーカーLifeSize Communications社は、ビデオ会議システム用のネットワーク・インフラ製品の各製品を発表した。今回発表された製品は、IPとISDN通信を変換する「LifeSize Gateway(ライフサイズ・ゲートウェー)」、呼制御を行う「LifeSize Gatekeeper(ライフサイズ・ゲートキーパー)」、そして、12 拠点(ポート)あるいは、24 拠点(ポート)までのビデオ会議多地点接続を可能とする「LifeSize Multipoint(ライフサイズ・マルチポイント)」の各製品。

ライフサイズ社は、ハイデフィニションのビデオ会議システム端末や、ゲートウェー、ファイアウォール/NAT 越え装置、運用管理システムなどを開発、市場に提供してきたが、今回の発表では、インフラ製品のラインナップをハイデフィニションに対応、あるいは製品追加することで、ハイデフィニションのビデオ会議を端末からインフラ製品までトータルにサポートすることを目指す。

現在世界 20 カ国に販売代理店があり、日本では、ライフサイズ社の日本法人が最近設立された。国内販売パートナーは、株式会社東和エンジニアリング(東京都台東区)、株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)、プリンストンテクノロジー株式会社(東京都千代田区)。

## ショートニュース項目

◆株式会社メディアプラス(東京都千代田区)は、多地点接続装置メーカーの Codian 社の MCU4200 シリーズの新モデル「MCU4203」を発売する。



Codian MCU4203 は、小・中規模の企業ユーザ用途に最適なシステム。6 拠点での映像と音声の会議が可能。また、HRO オプション(4CIF、XGA、720pHD)が標準装備。メディアプラスは、Codian 社の日本国内における正規輸入販売店。

(CNA レポート・ジャパン Vol.8 No.22 2006 年 8 月 31 日号、Vol.8 No.24 2006 年 9 月 20 日号)

## セミナー・イベント情報

### BizInnovation 2006

#### ビジュアルコミュニケーション Autumn 2006

日時:2006 年 10 月 18 日-20 日

場所:東京ビックサイト

主催:日経 BP 社

\*BizInnovation 2006 の特設イベントとして開催。

詳細・申込:

<http://expo.nikkeibp.co.jp/biz/vc/index.shtml>

### Web 会議ソリューションセミナー

日時:10 月 26 日(木) 15:00 - 16:40

場所:蝶理情報システム株式会社 東京支社(池袋)

主催:蝶理情報システム株式会社

\*Web 会議システム IC<sup>3</sup> の紹介、事例、デモ。

詳細:<http://www.cjs.co.jp/seminar/detail.cfm?no=885>

### ポリコム新製品発表セミナー

日時:2006 年 11 月 8 日(水) 15:00~(開場:14:30)

場所:ホテルニューオータニ ザ・メイン アーケード階「悠の間」

主催:ポリコムジャパン株式会社

\*次世代ビデオ会議システムの発表:UltimateHD ソリューション、利用事例など紹介。

詳細:<http://www.polycom.co.jp/event/061108/>

## 編集後記

日々CNA レポート・ジャパンへのご協力、ご支援ありがとうございます。今号もお読みいただきましてありがとうございました。

一昨日から毎日、日経 BP 社のビジュアルコミュニケーション Autumn2006 の展示会に取材に入っていますが、電話会議系ではサービスやウェブ会議の ASP サービス、ウェブ会議ベンダ系では、新製品や操作性を高めた製品、USB メモリで起動するタイプなど各種システムが展示、また、テレビ会議系では、HD を全面に出した製品やサービスの展示、さらに、今年後半から来年にかけてリリース予定の参考出品なども多数展示されていました。テレビ会議系やウェブ会議系ではキャスター付きラックに載せたシステムなどが展示。今回テレビ会議端末、VoIP 電話会議端末、音声会議用多地点装置を発表したメーカーの出展もあり。これから最終日会場へ再度取材に入ります。

編集長 橋本